

日教組香川
2018.11



発行所 日教組香川教職員組合
〒760-0008 高松市中野町15-24
佐藤ビル1F
TEL 087-802-1640
FAX 087-802-1642
URL <http://www.jtu-k.com/>
E-mail jtu-kagw@triton.ocn.ne.jp
発行人 嶋村太伸
毎月1日発行

反戦平和を今こそ語れ！



香教組でもない、香教連でもない、高教組でもない
全国で一番なかまの多い 日教組香川へ

10.11県人事委員会勧告 勤務時間の客観的把握と業務適正化や効率化を 給料表の水準とボーナス(0.05月分)引上げ 不妊治療を受けやすい職場に

10月11日(木)、県人事委員会(委員長 関谷利裕)は、今年度の『職員の給与等に関する報告と勧告』を行い、日教組香川を含む五者共闘に説明会を行いました。日教組香川からは、嶋村委員長が出席しました。

本年の給与勧告のポイントは、本年の民間給与との較差に基づく給与改定として、

- ① 民間給与との較差(596円、0.16%)を埋めるため、給料表の水準の引上げ
- ② 期末・勤勉手当(ボーナス)の引上げ(0.05月分)

です。

また、報告の中では「とりわけ、教育職員については、その職務と勤務態様の特殊性により、勤務時間の内外を包括的に評価されているが、近年、教育職員に求められている役割は拡大し、その厳しい勤務実態が顕在化している。学校現場においては教育職員の長時間勤務が常態化しているが、こうした状況を改善するため、その勤務時間を客観的に把握し、業務の適正化や効率化などに向けた取組が必要である。そのような中、教育委員会は本年3月に「教職員の働き方改革プラン」を策定したところであり、同プランに掲げる取組を着実に進めていくことが重要である。」とし、長時間勤務の改善の必要性を強調しています。

さらに、独自に要求していた長期不妊治療休暇新設については、「なお、不妊治療への支援については、国及び他の都道府県の状況を注視しつつ、不妊治療を受けやすい職場環境の醸成等を図っていく必要がある。」とし、職場での環境改善を求めています。

今後、日教組香川は、11月15日の県教委交渉で、「教職員の働き方改革プラン」の具体的なフォローアップを引き出していきます。

○ 本年の給与勧告のポイント

- 1 民間給与との較差596円(0.16%)を埋めるため、給料表の水準の引上げ
- 2 期末・勤勉手当(ボーナス)の引上げ(0.05月分)

平成29年4月における国家公務員の俸給月額を100とした場合の本県職員のラスパイレス指数は97.7(全都道府県職員の平均指数は100.2)である。

(3) 給与改定の内容

給与改定額及び改定率(行政職)

現行給与月額	改定後の給与月額	改定額(率)	改定額の内訳
363,092円	363,675円	583円(0.16%)	給料月額 564円 はね返し分(注)19円

※ 平均年間給与影響額等(行政職)

〔勧告前〕6,014千円 〔勧告後〕6,042千円

〔影響額(率)〕28千円(0.47%)

ア 給料表

- ・行政職給料表については、本年の民間給与との較差の大きさ及び民間の初任給を中心とする若年層の状況等を踏まえ、人事院勧告における俸給表に準じて若年層に重点を置きながら引上げ改定を行う。
- ・行政職給料表以外の給料表についても、行政職給料表との均衡を基本に引上げ改定を行う。
- ・職員の在職実態等を踏まえ、行政職給料表5級、公安職給料表5級、研究職給料表3級及び医療職給料表(三)5級について、8号給の増設を行う。行政職給料表5級の場合、最高号給が93号給(393,000円)から101号給(395,000円)となる。

イ 初任給調整手当

- ・医師に対しては、医療職給料表(一)の改定状況を踏まえ、人事院勧告に準じて改定する。
- ・獣医師職員に対しては、人材確保の観点等を踏まえ、支給月額の限度等を改定する。

30,000円 → 55,000円(15年間で減額しながら支給)

ウ 通勤手当(通勤手当の特別料金等(特急料金及び高速道路料金))

遠距離等のため通勤することが困難である職員に対しては、特別料金等(特急料金や高速道路料金)の2分の1の額(支給限度額:20,000円/月)を支給しているところであるが、公務能率の向上やワーク・ライフ・バランスの実現の観点から、通勤することが特に困難である職員に限

I 本年の民間給与との較差等に基づく給与改定

1 給与に関する報告と勧告

(1) 民間給与との比較

ア 月例給(平均給与月額)の比較

民間給与との較差 596円 0.16%(昨年 472円 0.13%)

民間従業員(事務・技術)	県職員(行政職)	較 差
363,688円	363,092円	596円(0.16%)

(注)1 平均給与月額とは、所定外給与である超過勤務手当等及び実費弁償的な性格の通勤手当等以外の全ての給与の平均月額をいう。

2 民間従業員の平均給与月額は、平成30年職種別民間給与実態調査に基づき役職段階、学歴及び年齢を県職員と対応させて算出したものである。

3 民間給与との比較に用いた県職員の平均年齢は44.0歳で、平均経験年数は21.5年である。

イ 期末・勤勉手当の比較

民間従業員の年間支給割合4.45月分(県職員の年間支給月数4.40月分)

(2) 国及び他の都道府県職員の給与との比較



説明会に参加する嶋村日教組香川委員長(左端)

り、特別料金等の全額(支給限度額:40,000円/月)を支給する。

エ 宿日直手当

宿日直対象職員の給与状況等を踏まえ、人事院勧告に準じて改定する。

オ 期末・勤勉手当

年間支給月数を引上げ4.40月分→4.45月分(勤勉手当を0.05月分引上げ)来年度以降においては、6月期及び12月期の期末・勤勉手当が均等になるよう配分する。

	6月期	12月期
本年度 期末手当	1.225月(支給済み)	1.375月(改定なし)
勤勉手当	0.90月(支給済み)	0.95月(現行0.90月)
31年度以降 期末手当	1.30月	1.30月
勤勉手当	0.925月	0.925月

カ 本年の給与改定の実施時期

平成30年4月1日。ただし、期末・勤勉手当については、平成30年12月1日。給料表の号給増設、初任給調整手当(獣医師職員)及び通勤手当については、平成31年4月1日

II 人事管理

1 人事評価の適切な実施と活用

- 人事評価制度は、職員が発揮した能力及び業績を把握した上で行われる客観性・透明性の高い制度として法定化され、人事評価の結果については、能力・実績に基づく人事管理を徹底する観点から、人事管理の基礎として活用するものとされている。
- 本県においては、平成12年度から人事評価制度を運用しているが、より高い意欲と能力を持った人材を育成するとともに、組織全体の活力と公務能率の向上を図り、県民サービスの向上につなげるよう、必要に応じて制度を改善していくことも重要である。

2 人材の確保・育成

(1) 優秀で多彩な人材の確保

- 少子化等による人口減少が重要な問題となっている中、県勢を将来的に発展させるためには、優秀な若い人材を広く県内外から確保することが喫緊の課題である。
- 技術系職員については、人材を確保することが困難な状況が継続しているため、本県の施策や仕事の魅力等を学生等に直接伝えられるようリクルーター制度の構築等、採用広報活動の充実を図るほか、多様なキャリアパスのあり方の研究にも取り組んでいく必要がある。
- 受験者の減少など社会情勢の変化を踏まえ、採用試験の実施方法等についても、幅広く検討し、受験しやすい環境の整備に引き続き取り組んでいく必要がある。

(2) 人材の育成

- 複雑・多様化する行政課題に迅速かつ的確に対応していくためには、多様な業務を経験する機会の付与を通じた育成を行う必要がある。豊富な経験や知識を有する職員から若手職員への技術継承を推進するとともに、研修の受講機会等の拡充により職員の専門能力を向上させるほか、自己啓発に取り組む意欲を醸成するための環境整備を進めることが求められる。
- 新規採用職員に占める女性の割合が高い状況であることから、女性職員が将来高い職責を担うことを見据えた業務分担や職域拡大に取り組むなど、キャリアアップへの動機づけを行うことにより、管理職となり得る女性職員の人材の層を厚くしていくことが重要である。

3 勤務環境の整備

(1) 総実勤務時間の短縮

- 長時間労働の是正等のため、いわゆる働き方改革関連法が成立し来年4月から施行されることとなった。ま

た、国家公務員については、人事院の報告で超過勤務命令を行うことのできる上限の時間を人事院規則で定めることとされた。こうした状況等を踏まえ、本県においても長時間労働の是正に向けた実効性ある方策を検討していく必要がある。



関谷利裕県人事委員会委員長

- 総実勤務時間の短縮に向け、超過勤務の要因分析の結果に基づいて、事務事業を見直すなどの取組を進めていく必要がある。また、管理職員がマネジメント能力を一層向上させるほか、職員一人ひとりが、強いコスト意識を持ち自発的に業務改善や効率化に取り組む必要がある。
 - 教育職員については、学校現場において長時間勤務が常態化している中、教育委員会が「教職員の働き方改革プラン」を策定したところであり、同プランに掲げる取組を着実に進めていくことが重要である。
- (2) 健康管理対策の推進
- メンタルヘルスについては、心の不調者の発生防止、早期発見・早期対応、円滑な職場復帰と再発防止といった各段階に応じた対策を引き続き重点的に講じることが必要であり、これまでの取組のほか、ストレスチェックの適切な実施等により職員が心の不調になることを未然に防ぐとともに、健康状態の把握、早期対応を促進する必要がある。
 - 長時間労働は、心と身体の疾病を引き起こす要因にもなり得ることから、やむを得ず長時間労働を行った職員に対しては、健康を確保するため、医師による面接指導等を活用していくことが重要である。
- (3) 仕事と家庭の両立支援
- 仕事と家庭の両立を支援する職場環境を整備することは、ワーク・ライフ・バランスの実現や公務能率の向上の観点からも重要な課題である。
 - 男女を問わず職員が育児や介護をしながらでもより働きやすくなるなど、多様で柔軟な働き方について、他の都道府県の取組も参考にしながら検討していく必要がある。
- 4 高齢層職員の能力と経験の活用
- 人事院は、国家公務員の定年を段階的に65歳に引き上げるための国家公務員法等の改正についての意見の申出を行った。地方公務員の定年は、国の職員の定年を基準として条例で定められることから、今後、国における法改正等の動向を注視する必要がある。
 - 任命権者においては、国家公務員の定年引上げの動向にも注視しながら、高齢層職員の能力と経験を本格的に活用する観点から、業務内容や配置ポスト、モチベーションの向上方策のほか、任用形態等についても、引き続き検討を進める必要がある。
 - 組織の活力維持を図る観点からは、若手職員の安定的・計画的な確保による組織の新陳代謝も必要であるため、人員構成の将来展望に立った計画的な定員管理に努める必要がある。
- 5 会計年度任用職員制度への取組
- 会計年度任用職員制度の創設等を内容とした改正地方公務員法が平成32年4月から施行されることから、着実にその準備を進め円滑な実施を図る必要がある。
- 6 公務員倫理の徹底
- 職員一人ひとりが、職務の内外を問わず、県民全体の奉仕者として強い使命感と高い倫理観を持って県民の期待と信頼に応えられるよう行動する必要がある。



特別報告は、岡村 真さん(高知大学名誉教授)の「西南日本内陸地震活動の活発化と近づく南海トラフ地震」だった。「地震は災害ではない」という言葉が印象に残った。人間が地震への準備をしていれば、地震は災害にならない、という意味である。それは、十分に調査を行わず原案を作った政策への非難と共に、私たち一人ひとりの呼びかけにも聞こえた。「現代の科学で将来発生する地震を正しく想定することは不可能」という言葉と共に、心に留めておきたいと感じた。

10月13、14日、香川で、日教組の平和集会在全国から120名あまりの参加で開催されました。
1日目は岡村真知大学名誉教授による特別報告「西南日本内陸地震活動の活発化と近づく南海トラフ地震～特に伊方原発中央構造線系活断層の地震とその過小評価過程～」があり、原発推進の恐ろしさを科学的に示されました。
その後、以下の4つの分科会がありました。

- ① 基地・日米安保・有事法制など「戦争のできる国」づくりに関する問題
 - ② 核兵器廃絶、脱原発など核と人権に関する問題
 - ③ 戦後補償や国際連帯へのとりくみ
 - ④ 平和をすすめる運動・教育
- 2日目のフィールドワークは、フェリーで小豆島に渡り、地元バス労組のOB、OGのグループの方々が演じる『二十四の瞳』と喜岡淳香川人権研究所理事長による『二十四の瞳』と人権・平和教育の講演が行われました。
その後、「二十四の瞳映画村」を散策しました。
2日間の集会で、平和の大切さと「教え子を再び戦場に送るな」をあらためて確認しました。



「二十四の瞳」の紙芝居に感動して外に出ると、魔女の毛急便風のほうきを持って、キキの衣装を着たグループや、結婚式の写真撮影をしているカップルがいて「平和だなあ」としみじみ思った。
教員生活は30年を超えようとしているが、私は関わった何百人の子供たちの中の誰一人として戦場に送ったことがない。だが、大石先生は、戦場に教え子を送り、悲しい別れをした。盲目の鎌吉が記念写真を送り、残された者で思い出を語るシーンは、何度見ても涙が溢れる。
「教え子を再び戦場に送るな」を掲げ続けなければならぬ。

平和を語った @小豆島

2018日教組平和集会

第1分科会『基地問題・日米安保・有事法制など「戦争のできる国」づくりに関する問題』に参加した。石川県、神奈川県、沖縄県からリポート発表があり、そのリポートをもとに討議が行われた。特に基地のある学校と平和教育については考えさせられた。基地関連の仕事をしている保護者の児童・生徒に対して、どのような平和教育を行っていくか。基地が身近ではない私は、その課題を考える機会となった分科会であった。

第2分科会に参加しました。全体会で岡村真さんの講演を聞いた後だからか、福島からの報告は胸に迫るものがありました。2011年の原発事故から8年、恐ろしい早さで風化が進み、「原発の安全神話」が蘇る、不気味な足音を感じました。川崎からの「ヘイト根絶の戦い」しかり、広島の「原爆2世のとりくみ」しかり。今こそ正しい知識を身につけ、それを周りにも発信することの大切さを学んだ3時間でした。

第4分科会「平和をすすめる運動・教育」に参加した。本当の平和をめざすためには、心の目を開き、「それが正しいのかどうか?」「真実かどうか?」をしっかりと見極める必要がある。そして、未来を担う子どもたちにも、本当のことを伝えること、正しい判断ができる頭と心を持たせることが大切であると感じた。そのためには、日頃からの教育活動の中で、平和について、身近なことから考えていくことが必要ではないだろうか。子どもたちを生かすも殺すも私たち教員のウデにかかっている。

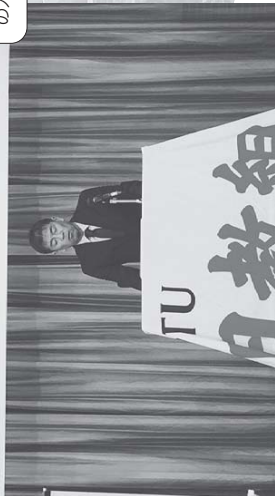


講演される喜岡香川人権研究所理事長



歓迎のあいさつをされる中川小豆島町教育委員

2018年度 日教組平和集会



全体会であいさつする嶋村日教組香川委員長

日教組、文科省と協議「全国学力・学習状況調査」について

「文科省としても 過去問を使った事前対策で 点数を上げることは望んでいない」

文科省は10月9日『平成31年度全国学力・学習状況調査の中学校英語「話すこと」調査に向けて』を作成しホームページに掲載しました。来年度の悉皆での実施にあたり、事前の確認や調査の手順、今後のスケジュール等を示しています。

これに先立ち、日教組は10月2日「全国学力・学習状況調査」について「18年度全国学力調査の実態報告」などの現場の声をもとに文科省協議を行いました。

主なやりとりは次のとおりです。

1. 英語調査について

- PC環境については自治体ごとの格差が大きい。まずは環境を整えることを優先し、悉皆調査の実施時期を見直す。
- 来年度悉皆で実施するのであれば、実施期間に幅を持たせる。
- 学校現場負担軽減のため、調査の事前準備（PCの設定）等のための人員を配置する。
- データの回収についても、現場の負担にならないよう対策を講じる。

【文科省の回答】

- ・PCの環境については11月ごろに実態調査をし、対応を検討する。
- ・1月ごろには、PCの動作環境等を事前に試し、不具合が起こらないように対応する。
- ・PCの設定については、事前に（3月ごろ）WEBからダウンロードできるように考えている。
- ・周りの生徒の声が聞こえるという問題については、問題の作成についても考えている。
- ・来年度実施するという前提で動いているので、できる限り現場の負担を軽減できるよう考える。
- ・大規模校については、PCを追加設置する等対策を考えている。

2. 「事前対策」「結果公表」について

- 過度な事前対策を行わないことや、結果公表について、競争や序列化を招かないために、再度通知を出す。
- 担当課長等、様々な機会を設けて過度な事前対策を行わないよう、結果公表の目的外使用をしないよう話をする。
- 概算要求の実現。
- 加配配置の見直し。

【文科省の回答】

- ・過度な事前対策や、結果公表の取扱いについては、様々な機会を通して、担当者には話をしている。
- ・結果公表の際にも、取扱いについての文書を出している。
- ・12月には実施要領が出るので、その際にも担当者にきちんと伝える。
(例年より少し早い時期でと考えている。)
- ・結果活用好事例を提供していく。
- ・文科省としても、過去問を使った事前対策で点数を上げるようなことは望んでいない。
- ・ルビうちしたもの、点字、拡大版等、の問題文も用意している。
- ・あくまでも調査である。
- ・文科省が学校の設置管理者の協力を得て実施するもので、やるやらないは学校設置者の判断による。

文科省は、子どもや学校現場の負担等について一定の理解を示したものの、悉皆調査と結果公表については継続するとしています。英語調査についても、自治体によりPCの環境にばらつきがあることは承知の上で、環境をできる限り整えて、来年度悉皆で調査するという姿勢は崩していません。

日教組は、引き続き文科省協議を強化していきます。なお、来年度の実施要領については12月ごろ出される予定です。

気軽におしゃべり、 秋の夜長のJ T U-カフェ

2018年11月15日(木) 18:30～
日教組香川事務所(高松市中野町 15-24 佐藤ビル1F)

相談ごとなどありましたら、お気軽にお越しください。飲み物とお菓子を用意しています。電話やファックスでの相談もできます。なお、日教組香川組合員で無い方も歓迎です。ただし、その場合、お茶代 500 円をいただきます。

教職員共済

大雨・台風で被害を受けられた組合員の皆さまへ

このたびの大雨、台風により被害を受けられた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。教職員共済の各共済をご契約の方で、このたびの大雨、台風により「建物への被害」「お体のけが」「お車の被害」等を受けられた方は、下記までご連絡ください。

共済金ご請求専用フリーダイヤル

0120-065411 (平日 9:00～17:30)

共済金のお支払について

※次の各共済をご契約されている方はお支払いの対象となることがありますのでお問い合わせ下さい。

総合共済 火災共済・自然災害共済 車両共済(保険) 医療共済 レスキュースリー(交通災害共済)

契約に関するお問い合わせ等は、0120-27-8140 東四国事業所までご連絡ください。

(受付時間：平日午前9時～午後5時30分)

カナリア通信

原点

◆小豆島は初任の地。わたしの原点と言える場所です。無我夢中で過ごした日々があったからこそ、今も教師としていられているように思います◆運動会で応援せずにけんかを始めた子どもを後ろの砂場に出して、気持ちが悪く落ち着くまで必要ならけんかもしようがないと対応していた若いわたしの行動を、地域のお年寄り「がうなずきながら見てくれていました◆あのころ見守ってくださった方々への感謝の気持ちと口ずさむだけで涙腺が反応してしまふ「二十四の瞳」の歌を思い出したひと時でした。



先生も子どもも、
前を向いている授業を考えませんか

基礎からわかる

人権教育講座 2018



第1回 11月30日(金) 19:00~20:30
「15の春をめざして」(仮)

第2回 1月25日(金) 19:00~20:30
「香川の部落史(抄)」(仮)

第3回 2月22日(金) 19:00~20:30
「部落史で何を教えるか」(仮)

講師 山下隆章 先生

(香川県人権・同和教育研究協議会事務局次長)

場所 香川部落解放・人権啓発センター
第1研修室

(丸亀市川西町南715-1)

受講料 無料

日教組香川教職員組合

〒760-0008 高松市中野町15-24佐藤ビル1F

TEL 0120-27-5925

E-Mail jtu-kagw@triton.ocn.ne.jp